

記 入 日 2012年1月17日

## 1. 概 要

実践団体名	「やさしい日本語」有志の会		
連絡先	担当者 杉本 篤子 (携帯電話) 090-7354-7846		
プランタイトル	「やさしい日本語」から防災教育へ		
プランの対象者※1	6,7,10,11,17,19 (ボランティア日本語教師、国際交流団体職員)	対象とする災害種別※2	1

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント！】

日本に住んでいる外国人の多くが、災害時に「災害」と「正確な情報を得られない」という二重の被災者となる。「やさしい日本語」有志の会は、一人でも多くの外国人も災害時に助かって欲しいとの思いから、外国人に一番近い存在であるボランティア日本語教室を中心に防災教育の啓発活動やツール作成など様々な活動に取り組んでいる。また、日本人にも外国人が災害時に陥る状況を理解してもらい、災害時だけでなく日常時でのコミュニケーションにも役立つ「やさしい日本語」について、ワークショップを展開している。

## 【プランの概要】

- ① ボランティア日本語教室に対して防災教育の定期的実施を呼びかけ
- ② 防災教育ツール「防災グッズカード」の作成、教師用解説書の作成、配布
- ③ 在住外国人のための「防災グッズ展示会」の実施
- ④ 「やさしい日本語」ワークショップ
- ⑤ 防災ホイッスル募金 (東日本大震災への募金とホイッスルの共同購入のコラボレーション)

## 【期待される効果・ここがおすすめ！】

本年度は特に、防災教育ツールの「防災グッズカード」の作成に力を注いだ。これは防災グッズのイラストと「やさしい日本語」を使った説明でできており、日本語初級レベルの学習者から防災教育が実施できる。また、教師用解説書も作成し、京都府下のボランティア日本語教室をはじめとして100セットの無料配布とWebからのダウンロードを実施中。全国的な防災教育の展開につなげていく予定である。

また、日本人向けに「やさしい日本語」ワークショップを実施。市民ボランティアや国際交流団体の職員、行政等様々な人たちに、災害時に外国籍住民がどのような状況に陥るのか「気づき」、私たちに何ができるのかを「考えて」もらう実践的ワークショップを行っている。

## 2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	年間スケジュール立案		・ホイッスル募金活動
5月			・ホイッスル募金 寄付 ・5/14 ワークショップ (京都 YWCA) (以下 WS と略)
6月		防災グッズカード(選定と「やさしい日本語」への翻訳)	
7月		防災グッズカード(イラスト選定、使用許諾)	・7/1 WS(静岡国際交流協会) ・7/8 WS(山城社会科学研究会) ・7/26 WS(「世界はテマン」八幡市)
8月		防災グッズカード(教師用解説書、翻訳作成)	・8/21 WS(舞鶴災害時外国籍府民サポーター研修)
9月		防災グッズカード(モニター試用の依頼)	・防災グッズ展示会①(京都府国際センター)
10月	後期スケジュール調整	防災グッズカード(カード再選定、資料再考)	・10/23 異文化コミュニケーション学会パネラー参加
11月		防災グッズカード(翻訳語に繁体字追加)	・11/12 WS(城陽市国際交流協会) ・11/27 WS(浜松市国際交流協会)
12月		防災グッズカード(名刺用紙版の印刷準備)	・防災グッズカード作成、京都配布 ・12/7, 14 WS(とんだばやし国際交流協会)
1月		防災グッズカード(名刺版印刷、全国配布用 100 セットの印刷、ホームページへの掲載、案内作成)	・防災グッズ展示会②(1/14-20) ・1/14 WS(越前市国際交流協会) ・災害多言語支援センター設置・運営訓練(1/21)
2月			・2/1 WS(静岡県沼津市) ・防災グッズカード配布、活用依頼
3月			・防災グッズカード配布、活用依頼 ・WS(3/4 和歌山国際交流協会)



### 3. 実践したプランの内容と成果

#### 【実践プログラム番号：1】※3

タイトル	ホイッスル募金
実施月日（曜日）	2011年3月末から5月末まで
実施場所	京都にほんご Rings(京都府下のボランティア日本語教室ネットワーク)を中心に顔の見える範囲で実施
担当者または講師	「やさしい日本語」有志の会メンバー全員で
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 その他
活動目的※5	8 防災意識を高める、10 その他（被災者への寄付）
達成目標	緊急用ホイッスルは携帯電話にストラップとして付け、IDを書いた紙を入れておくことのできる100円(税込105円)の防災グッズである。これを195円の寄付金とともに共同購入することを京都にほんご Ringsに呼びかけ、東日本大震災への募金活動とした。これにより防災グッズの購入、防災意識の啓発、東日本大震災への寄付が同時に行える。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 京都にほんご Ringsの加盟団体にホイッスル募金を提案</li> <li>② ボランティア日本語教師、各団体の外国人学習者、そしてその家族や知り合いなどに依頼</li> <li>③ 各団体ごとに数量を取りまとめ、「やさしい日本語」有志の会でまとめて購入、集金、配布</li> <li>④ 「やさしい日本語」有志の会で寄付先を選定</li> <li>⑤ 「カトリック東京国際センターCTIC」に20万円を寄付</li> <li>⑥ 定例会にて報告とお礼、Web、メールにも経緯、お礼等を掲載</li> </ol>
参加人数	1000人
経費の総額・内訳概要	@195円×1000個+α で20万円が集まった。
成果と課題	<p>【成果】この寄付の願いは、信頼性を確保するために京都にほんご Ringsを中心とした顔の見える範囲で行った。予想以上に多くの方々の賛同を得ることができ、20万円という金額を「カトリック東京国際センターCTIC」に寄付することができた。また、多くの外国人にホイッスルを持ってもらうことができ、防災授業のきっかけともなった。</p> <p>【課題】災害後の混乱期でもあり、ホイッスルが品薄となり、配布までに時間を要した。</p>
その他	寄付先は赤十字等も考えられたが、話し合いの結果、「できるだけ速やかに」「在住外国人住民に直接的に」寄付金を届けたいとの結論から、活動団体を探し、有志の会のメンバーに先方を訪問、活動を確認した上で「カトリック東京国際センターCTIC」に決定した。活動の経緯、「カトリック東京国際センターCTIC」の活動報告等の詳細は、「やさしい日本語」有志の会のホームページに掲載した。



## 【実践プログラム番号：2】※3

タイトル	防災グッズカード
実施月日（曜日）	2011年4月から2012年3月
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 教材の作成
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり、6 防災に関する知識を深める
達成目標	初級の日本語学習者でも取り組める防災教育ツールの開発
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>6月：カードの選定と説明文の「やさしい日本語」翻訳          7月：イラスト選定、使用許諾申請          8月：教師用解説書、商品名外国語翻訳の作成          9月：京都にほんご Rings の加盟団体にモニター試用の依頼          10月：モニターの意見を参考にカードの再選定、教師用解説書再考          11月：商品翻訳語に繁体字追加、名刺作成ソフトでの印刷準備          12月：名刺ソフト版印刷・配布 全国配布用 100セットの印刷          1月：配布準備作業、Web版作成、配布案内          2月：配布開始</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナル教材は、神戸学院大学防災・社会貢献ユニットの教材『カードで学ぶ非常持出袋』</li> <li>・12月京都にほんご Rings 配布分については名刺作成ソフト、市販の名刺用紙を利用してカラープリンターで作成</li> <li>・全国配布分の 100セットは業者に依頼して印刷</li> <li>・配布分終了後は、ホームページからダウンロードし、A4コピー用紙に印刷できるようにし、気軽に使える工夫をした。</li> </ul>
参加人数	原稿作成から配布作業は「やさしい日本語」有志の会メンバーで行い、品名の翻訳は在住外国人、試作版のモニタリングとそのレポートは京都にほんご Rings の加盟 4 団体に依頼した。
経費の総額・内訳概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名刺用紙への印刷分（京都にほんご Rings 他 70セット） 名刺用紙、プリンターインク、カードケース、ラミネート用紙 コピー用紙等（約¥25,000）</li> <li>・業者への印刷（印刷とカット 100セット¥27,452）</li> <li>・郵送料（約¥8,000）</li> </ul>



<b>成果と課題</b>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害への備えをイラストと「やさしい日本語」による 30 種類のカードを使って、初級の学習者にもわかりやすい防災教育が行えた。</li> <li>・防災授業では、カードの品物を「知っている」、「知らない」ということから始め、品名、使い方、購入場所、価格などの話題、母国や日本での地震の経験談に発展させ、その中で教師は災害時の状況や日ごろからの備えの重要性などについて、そのクラスの特長(日本語能力や在日期間、理解力等)に応じて教えることができた。</li> <li>・製作過程でカードの説明文を「やさしい日本語」に翻訳する作業により、翻訳力を養うことができた。</li> <li>・在住外国人に品名の翻訳を依頼したり、ボランティア日本語教室にモニターを依頼したことにより、防災教育の実践の一つとなった。</li> <li>・「教師用解説書」には教えるために必要な防災知識等を掲載し、教師自身も学ぶことができた。</li> <li>・上級クラスではカードだけでなく、この「教師用解説書」を読んで学習するところもあった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災グッズカード」は、完成・配布が実践のスタートである。まずはこれらを使ってもらえるよう、メールやホームページ等を活用して、今後も継続的にやり取りをし、防災教育の啓発活動を行ってきたい。</li> </ul>
<b>成果物</b>	「防災グッズカード」 「教師用解説書」

### 【実践プログラム番号： 3】※3

<b>タイトル</b>	在住外国人のための防災グッズ展示会
<b>実施月日（曜日）</b>	第 1 回 2011 年 8 月 30 日(火)から 9 月 9 日(金) 第 2 回 2012 年 1 月 14 日(金)から 20 日(金)
<b>実施場所</b>	財団法人京都府国際センター ロビー （京都駅伊勢丹 9 階）
<b>プログラムの カテゴリ、形式※4</b>	1 イベント・行事
<b>活動目的※5</b>	6 防災に関する知識を深める、8 防災意識を高める
<b>達成目標</b>	多くの在住外国人に防災グッズを知ってもらい、防災意識を高めるとともに災害に対する備えをしてもらう。
<b>実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）</b>	昨年度の予算で有志の会で防災グッズを 1 セット購入した。これをボランティア日本語教室に貸出し、防災授業に活用していたが、本年度はより広く紹介するために、防災週間や防災とボランティア週間に合わせた日程で展示会を開催した。



<b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDの「ビジュアル版 幸せ運ぼう」を常時放映</li> <li>・災害の初期行動のイラストや「やさしい日本語」についての紹介</li> <li>・防災グッズ(セットの40点)、家具転倒防止用具、ガラス飛散防止フィルム、防災ずきん、非常食等の展示</li> <li>・防災グッズには可能な限り「やさしい日本語」での説明文を添える</li> </ul>
<b>参加人数</b>	出入り自由のロビーのため、参加人数を把握できなかった
<b>成果と課題</b>	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に触ることもできるため、多くの外国人が関心を寄せた。</li> <li>・メンバーがいるときには、グッズの説明や準備の必要性などについて解説をすることができた。</li> <li>・メディアへの広報効果があり、新聞やNHKの取材等につながった。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出入りが自由のスペースで常時会のメンバーがいるわけにも行かないので、入場者数や具体的な外国人の感想を聞きだすことができなかった。</li> </ul>

### 【実践プログラム番号：4】※3

<b>タイトル</b>	災害多言語支援センター設置・運営訓練
<b>実施月日（曜日）</b>	2012年1月21日(土)
<b>実施場所</b>	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ（京都市南区東九条）
<b>担当者または講師</b>	〈1〉 在住外国人への防災授業：有志の会メンバー等6名 〈2〉 「やさしい日本語」ワークショップ：杉本
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	〈1〉 在住外国人への防災授業（午前11：00－12：00） 〈2〉 「やさしい日本語」シヨップ（午後3：00－5：00）
<b>プログラムのカテゴリ、形式※4</b>	1 イベント・行事 2 講習会・学習会・ワークショップ 16 避難・防災訓練
<b>活動目的※5</b>	4 災害を想定した訓練 9 災害対応能力の育成
<b>達成目標</b>	〈1〉 在住外国人に災害時の状況や、備えの重要性を知ってもらう。様々な防災グッズや使い方を紹介し、災害準備を促す。 〈2〉 災害時外国人サポーターが外国人向けの情報提供方法を学ぶ。「やさしい日本語」による掲示物のルールと有効性を理解する。外国人にわかりやすい掲示物の作成方法を体得する。



<p><b>実践方法・進め方</b> (箇条書き またはフロー)</p>	<p>〈1〉 外国籍府民への防災授業</p> <p>①オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震は近いうちに必ず起こるという現実を認識する</li> <li>・地震が起こったらどうすればよいのか初期行動を知る (地震が起こった時間、自分や家族のいる場所による違い)</li> <li>・地震が起こるとどうなるか ライフラインや携帯が使えない状況、避難所での生活等</li> </ul> <p>②「防災グッズカード」を使ったグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が防災グッズを準備しているかどうか確認する</li> <li>・「防災グッズカード」を使って、以下のこと等を話しあう <ul style="list-style-type: none"> <li>－知っているか、知らないか</li> <li>－名称、使い方、価格、売っているところ等</li> <li>－防災グッズはどこに置いたらいいか</li> <li>－宿題として 「防災メモ」を家族で話し合い、記入</li> </ul> </li> </ul> <p>〈2〉「やさしい日本語」ワークショップ</p> <p>①練習問題：災害時に良く使われる言葉の書き換え</p> <p>②「やさしい日本語」の12のルールと掲示物作成のルール</p> <p>③グループワークによる掲示物の作成 (より実践に近い情報で書き換えを実施した)</p> <p>④発表と評価</p>
<p><b>準備、使用したもの</b> ・人材 ・道具、材料等</p>	<p>〈1〉 防災グッズ一式の展示、防災ガイドブック、防災グッズカード 通訳、グループごとにボランティア日本語教師</p> <p>〈2〉 A3用紙、カラーマジック、プロジェクタ、パソコン</p>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>〈1〉 在住外国人 40 名</p> <p>〈2〉 日本人 30 名</p>
<p><b>成果と課題</b></p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>すでに行った「やさしい日本語」ワークショップ受講者にも参加を促し、ワークショップで学んだことを実践、訓練する機会として位置づけることができた。</p> <p>〈1〉 日本語教室に来ていない在住外国人や留学生に対しても、防災の知識や必要性を直接的に教えることができた。</p> <p>〈2〉 参加者は避難所での生活を想定し、「やさしい日本語」を使った外国人向けの掲示物に書き換えることにより、日本人向けの情報がいかに外国人に伝わりにくいかを体感することができた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>日本語教室に来ている以外にも、多くの外国人がおり、そうした人への防災教育の啓発方法を考えていく必要がある。</p> <p>こうした、より実践に近い訓練をワークショップの集大成として位置づけ、今後も積極的に企画段階から参加していきたい。多くの日本人に参加を呼びかけていきたい。</p>

## 【実践プログラム番号：5】※3

<b>タイトル</b>	「やさしい日本語」ワークショップ
<b>実施月日（曜日）</b>	<p>◆2011年</p> <p>5月14日(土) 京都YWCAアプト主催 (外国籍支援ボランティア、市議員等約20名)</p> <p>7月1日(金) (財) 静岡県国際交流協会 (静岡県内の市町村役所や国際交流協会の外国籍住民相談窓口の外国籍相談員、静岡県内の市町村役所にて多文化共生分野担当者約35名)</p> <p>7月8日(金) 山城社会科研究会(京都府京田辺市)</p> <p>7月26日(火) 日本語ボランティア教室世界はテマン (京都府八幡市 ボランティア日本語教師 約15名)</p> <p>8月21日(日) 京都府舞鶴市災害時外国籍府民サポーター研修 (京都府北部地域府民ボランティア 約15名)</p> <p>11月12日(土) 城陽市国際交流協会() (京都府城陽市 市民ボランティア約20名)</p> <p>11月27日(日) 静岡県外国語ボランティアバンク研修会 (浜松市外国語通訳ボランティア 約20名)</p> <p>12月7日(水) (特活)とんだばやし国際交流協会 「日本語ボランティア・スキルアップ講座 「やさしい日本語」とは」(ボランティア日本語教師6名)</p> <p>12月14日(水) (特活)とんだばやし国際交流協会 「日本語ボランティア・スキルアップ講座」 防災教育事例(ボランティア日本語教師 6名)</p> <p>◆2012年</p> <p>1月14日(土) 越前市国際交流協会 「やさしい日本語まなびの場」シリーズ講座第3回 (福井県越前市 区長、市民自治推進課職員、 交流協会職員、ボランティア日本語教師等約20名)</p> <p>2月1日(水) 静岡県沼津市職員研修会 外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」講座</p> <p>3月4日(日) 和歌山県国際交流協会(ボランティア日本語教師等)</p>
<b>担当者または講師</b>	杉本篤子、高橋佐代子
<b>所要時間</b>	2時間～3時間
<b>プログラムの カテゴリ、形式※4</b>	2 講習会・学習会・ワークショップ
<b>活動目的※5</b>	6 防災に関する知識を深める 7 技術を身につける 9 災害対応能力の育成
<b>達成目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に外国人がどういう状況に陥るのかを理解する</li> <li>・日常私たちが使っている言葉や表現のどこが難しいのか、どうすれば外国人にわかりやすい表現になるのかを「やさしい日本語」の12のルールを学びながら理解する</li> <li>・具体的なお知らせ文や放送文などをグループで話し合いながら「やさしい日本語」に書き換え、災害時はもちろん、日常のコミュニケーションや情報伝達について再考を図る。</li> </ul>



<p><b>実践方法・進め方</b> (箇条書き またはフロー)</p>	<p>ワークショップの進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者がどのくらい災害準備をしているか (家族と落ち合う場所、防災グッズの準備、家の耐震化等々の実情を尋ねる)</li> <li>2. 受講者の市の防災計画等について (防災計画、学校の耐震化、水道の耐震化情報の認知度を尋ねる)</li> <li>3. 災害時、外国人は災害と情報が得られないという二重の被災者になるという事実</li> <li>4. 練習問題1：身の安全を確保する、火の元を確認する、家族の安否を確認する、とは具体的にどのような行動を促すのかを考えることにより、日本語の難しさを知る</li> <li>5. 「やさしい日本語」とは：「災害時に外国人を助けるためのマニュアル」(弘前版)の有効性について</li> <li>6. 「やさしい日本語」の12のルール of 解説</li> <li>7. 練習問題2：一般的な日本人向けのお知らせと「やさしい日本語」のお知らせ文との違いについて考えるグループワークまたは、避難所での生活を想定して、日本人向けの情報をもとに、「やさしい日本語」のポスターをグループワークで作成(受講者によって変更)</li> <li>8. まとめ：「やさしい日本語」は災害だけでなく、情報発信や日常のコミュニケーションに役立つということ</li> <li>9. 課題：皆さんのできることを考えてもらう</li> </ol>
<p><b>準備、使用したもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材</li> <li>・道具、材料等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*開催地の情報として <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所で集めた防災関連パンフレット</li> <li>・ハザードマップ、防災計画書、地域避難マニュアル、学校耐震率一覧水道耐震率等資料や計画、災害時用援護者避難支援登録台帳等</li> <li>・市のホームページ情報</li> </ul> </li> <li>*「やさしい日本語」を学ぶ資料として <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に外国人を助けるマニュアル</li> <li>・「やさしい日本語」の作り方</li> <li>・京都市(市民向け)と神戸市長田区(外国人向け「やさしい日本語」)のインフルエンザのお知らせ文</li> <li>・「やさしい日本語」ガイドライン</li> <li>・外国人のための「防災ガイドブック」</li> </ul> </li> <li>*防災授業事例として <ul style="list-style-type: none"> <li>・「外国人のための防災ガイドブック」(京都府国際センター発行)</li> <li>・「防災グッズカード」</li> <li>・防災グッズセット</li> <li>・DVD「ビジュアル版 幸せ運ぼう」</li> <li>・「地震、そのとき」(大津市国際交流協会発行)など</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>参加人数</b></p>	<p>6名から40名</p>
<p><b>経費の総額・内訳概要</b></p>	<p>資料等の郵送にかかる費用(約2500円)</p>
<p><b>成果と課題</b></p>	<p>【成果】受講者の多くが、改めて自分たち自身が防災について学び、準備すべきであると自覚を促すことができました。また、外国人の視点でさまざまな物事を見直す機会を提供でき、言葉のバリアフリーについて考えるきっかけとなった。</p> <p>中でも、静岡県国際交流協会の取り組みは、次のワークショップにつながり、静岡県の防災教育の啓発活動に貢献できた。</p> <p>【課題】受講者に次のステップとして何かしらの実践活動につなげてもらいたい、というのがワークショップの目標である。こうした実践報告を集め、ホームページなどで情報交換や情報発信ができるプラットフォームづくりを目指したいと考えるようになった。</p>

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災に対するホイッスル寄付金活動を3月下旬より始めていたため、この活動を5月一杯でいったん終了することとし、9月と1月に開催する「外国籍住民のための防災グッズ展示会」をスケジュールに入れた上で、本年度中心となる「防災グッズカード」の製作を計画した。</li> <li>・多くの方々の協力を必要とする「防災グッズカード」製作においては、6月、9月、12月に行われる京都にほんご Rings の定例会を活用し、モニタリングの依頼や配布を行い、同時に啓発活動を行うこととした。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災グッズカード」の完成までに、できるだけ多くの人に関わることで啓発活動にもなるため、「やさしい日本語」への翻訳や品名の外国語翻訳、モニタリングを京都にほんご Rings の所属団体である日本語教室などに依頼した。</li> <li>・関係者の多くが仕事を持っている上でボランティア活動として日本語教育に携わっている。そこに「やさしい日本語」有志の会の活動を行うため、同時に集まる機会を作ることが大変困難であった。そこで、メール、グループメール、ホームページなど Web を活用して仕事の分担や進捗状況報告などを行うなどの工夫をした。</li> <li>・カードの製作には名刺作成ソフトを利用した。その利点は、完成版が出来上がるまでは修正や加筆変更が容易で、時間をかけてブラッシュアップができること、カラープリンターで手軽に印刷できるため実物がイメージしやすいことなどがある。今回、配布用に100セットを業者に依頼して印刷したが、今後もし必要であれば、修正等を加え、配布を可能な状態が継続できるようにした。</li> <li>・品名の翻訳には苦勞した。日本独自の商品で翻訳ができないものや、同じ言語でも人によって異なる場合も多く見られた。今回は「外国人のための防災ガイドブック」の翻訳に準拠した。</li> <li>・翻訳は当初、英語、中国語(簡体字)、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語であったが、モニタリングの後、繁体字の要望があったため、加筆した。同時に京都府国際センター製作の「外国人のための防災ガイドブック」にも改訂印刷の機会があれば繁体字によるものを作成するよう提案した。</li> <li>・昨年の活動の課題として、ボランティア日本語教師も防災知識が必要であり、学べる資料が求められていたことから、「防災グッズカード」を使うにあたっての「教師用解説書」を作成した。この資料は、玉木貴著・駒草出版の『わが家の防災 体験版』、『わが家の防災 Part 2 実践版』を参考に、許諾を得て作成した。</li> </ul>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災グッズカード」は、完成・配布から実践であると考えている。今回、業者に依頼して100セットを作成したが、簡易版と教師用解説書はホームページからもダウンロードができるようにした。それにより、100セットの配布が終了後も、必要であれば日本語教室で自由に使用してもらえるようにした。多くの利用を促すためにも、ワークショップでの紹介、マスコミへのプレスリリース、メールなどを利用した広報に力を入れていく予定である。</li> <li>・また、配布先には使用報告をお願いしている。こうした報告は、ホームページに掲載する、他の配布先への実践事例とするなど、情報提供に向けての利用を考えたい。このように、このカードの配布をきっかけに、全国のボランティア日本語教室との「つながり」やネットワークが築け、その後の情報交換や情報提供を行うことにより、全国的な防災教育の啓発活動が継続的にできるのではないだろうか。今後は地道にこうした活動を続けていきたい。</li> </ul>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
ボランティア団体・NPO法人・NGO等	京都にほんご Rings (京都府内のボランティア日本語教室のネットワーク 16 団体が加盟) <a href="http://k-rings.holy.jp/wp/">http://k-rings.holy.jp/wp/</a>	「防災グッズカード」の作成協力、モニタリング、実践団体 ロッカーの利用 「展示会」広報 「防災訓練」広報、参加
国・地方公共団体・公共施設	(財) 京都府国際センター  (財) 静岡県国際交流協会 (特活) とんだばやし国際交流協会 越前市国際交流協会 静岡県企画広報部地域外交局多文化共生課 (財) 和歌山県国際交流協会	会場利用 広報活動 ワークショップの企画・運営・実施 防災訓練の企画・運営実施の受託 講師派遣  ワークショップ講師派遣
職業、職能団体・学術組織、学会等	異文化コミュニケーション学会	10/30(日)兵庫県立大学環境人間学部木村玲欧先生のご紹介で、パネラーとして参加
学校・教育関係	山城社会科研究会 (京都府京田辺市で月 1 回行われる市民と社会科教師で行われる勉強会)	7/8(金) ワークショップ講師派遣
地域組織	カトリック東京国際センターCTIC <a href="http://www.ctic.jp/about.html">http://www.ctic.jp/about.html</a>	ホイッスル募金の寄付先
企業	レモン株式会社 株式会社ユタカメイク 寺西化学工業株式会社 ソニー株式会社 株式会社トクスイコーポレーション カシオ計算機株式会社 株式会社スリーエーネットワーク 株式会社サタケ 株式会社ミロク情報サービス 独立行政法人情報処理推進機構	「防災グッズカード」への写真・イラスト使用許諾

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>①「防災グッズカード」の作成を通して このカードが完成したことも有志の会の大きな成果であるが、その製作過程においては、様々なボランティアや在住外国人、国際センターの職員、ボランティア日本語教室などの協力を得ることができた。そしてそのこと自体がひとつの啓発活動となっており、今後の実践活動にも大きな期待ができる。</p> <p>②ホイッスル募金を通して 2010年度は、京都にほんごRingsを中心に防災教育の啓発活動を行ったが、その活動の流れとして、みんながホイッスル募金の活動に参加、協力し、寄付につながったことは大きな成果であった。</p> <p>③「やさしい日本語」ワークショップを通して 東日本大震災以降、災害に対する取り組みも、京都府以外で積極的に行われ、他府県からもワークショップの依頼が多くあった。中でも、静岡県では、7月1日に静岡県内の市町村役所や国際交流協会の外国籍住民相談窓口の相談員（外国籍住民）、多文化共生分野担当者（日本人）を集めての開催し、その後、11月27日の浜松市のボランティア向け、2月1日の沼津市職員向けのワークショップにつながり、12月には静岡県の国際課が本格的に情報提供のツールとして「やさしい日本語」に取り組み始めたとの報道もあり、大きな動きとなっている。こうした動きに些少でも貢献できたことは大変嬉しい。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>現在、在住外国人向けに提供されている情報は、発信側が「わかりやすいだろう」と思い込んでいるだけのものや、「ふりがな」さえあればよしとしている乱暴な情報提供も多く見られる。確かに「やさしい日本語」への翻訳は、言葉や文法だけでなく、日本人なら周知の事実や、文化的意味合いも含めて正確なメッセージにしなければならないため、本当に難しい。もし可能であれば、こうした情報発信は、日本語教師が知識を提供し、ボランティアが心を配り、外国人が経験を生かすといったような協力のもとで行われることが望ましい。</p> <p>一方、防災教育の啓発活動については、様々な事例とツールの開発が必要である。日本語学習者は、日本語レベルの違いのみならず、地震がある国から来た人、無い国から来た人、10年以上日本に住んでいる人、数ヶ月で帰国する人など家族や仕事や学習環境が異なり、実に多種多様である。また、教える側もボランティアであるがゆえのレベルの違い、授業の形態や教える環境の違いなど、京都にほんごRingsの加盟団体でさえ、それぞれ異なっているのが現状である。そうした多様性に対応するためにも、実際に行われた防災教育事例を多く集め、整理して提供していくことが必要とされている。</p> <p>また、教室に来ていない在住外国人への情報提供の方法も同時に考えていかなければならない。</p>

**今後の  
継続予定****1. 「防災グッズカード」と活用したネットワークの構築**

先にも触れたが、「防災グッズカード」は配布が実践の始まりである。配布先には防災授業の報告をお願いし、実践事例としての情報収集とする。また、こちらからは防災に関する情報提供や啓発活動を定期的に行うなど、双方向に情報交換できるネットワークの構築を目指したい。

**2. 情報提供のためのマニュアルの開発**

「やさしい日本語」のルールは容易に理解できるものの、翻訳作業は大変難しいのが実情だ。そこで、具体的にどのような手順で「やさしい日本語」へ翻訳すればいいのかを(財)京都府国際センターと協力してマニュアル化し、定期的に発信されるメールマガジンに役立たせたい。

**3. 実態・ニーズについての調査・分析**

有志の会としては、今後の防災教育の内容を考える上で、改めて外国人府民がどのような防災知識を持っているのか、準備をどのくらいしているのかという実態を把握したいと考えるようになった。おりしも、(財)京都府国際センターでは、外国人の情報ニーズや、本当に必要な情報が提供できているのか、情報提供方法の再構築するためにも実態を把握するの必要を感じていた。そこで、2012年度には共同で調査、研究を行うこととなった。京都にほんご Rings や大学、教会など、多数の外国人コミュニティにもご協力をいただきながら、広く在住外国人へのアンケート調査を行い、今後の活動に役立つよう、分析・報告書にまとめていきたいと考えている。

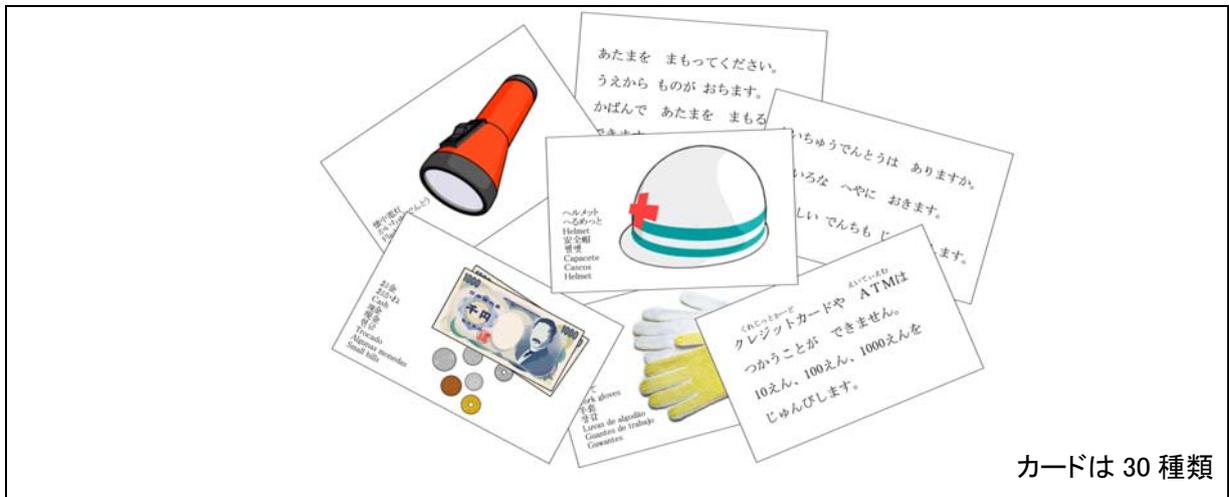
2010年度、2011年度と、防災教育チャレンジプランの実践団体として活動し、私たち自身も様々な学びの機会をいただきました。残念ながら、東日本大震災という大変不幸な出来事が起こってしまいましたが、10月の中間報告会では「防災教育」が必ず多くの命の助けにつながるという事実を学ぶこともできました。

私たちはこうした事実を深く受け止め、使命感と責任感を胸に、今後も防災教育活動を続けていく覚悟です。

お世話になった先生方、ご関係者の皆様、本当にありがとうございました。

### 7. 自由記述欄 ※6

#### ◆防災グッズカード



ケースは 100 円ショップで購入し、ラミネート加工した表紙を貼付



ミーティング

#### ・カードの一例



【表面】(イラスト・写真・翻訳)

はんどる らじお  
 ハンドルを まわすと ラジヲを  
 きくことが できます。でんきが  
 つきます。でんちが ありません。

【裏面】(「やさしい日本語」)

#### 【教師用解説】

サイレンや時計の付いたもの、携帯電話に充電できるものなどたくさんの物があります。発電方法や、使用可能時間、機能をよく確かめて購入する必要があります。地方 FM 局などで外国語放送をしているチャンネルなどがあれば紹介してください。

◆ホイッスル募金(3月末～5月末)



緊急用ホイッスル



カトリック東京国際センターへの寄付

◆「やさしい日本語」ワークショップ



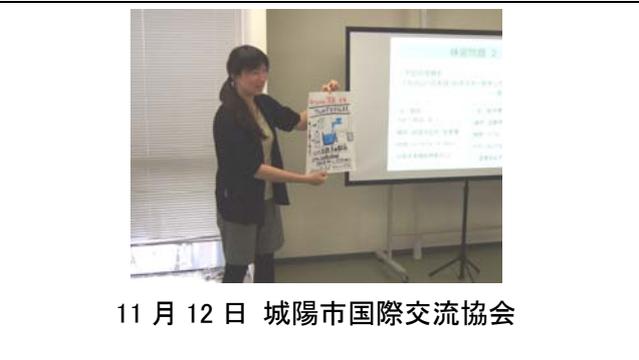
5月14日 京都YWCA



7月1日 (財)静岡県国際交流協会

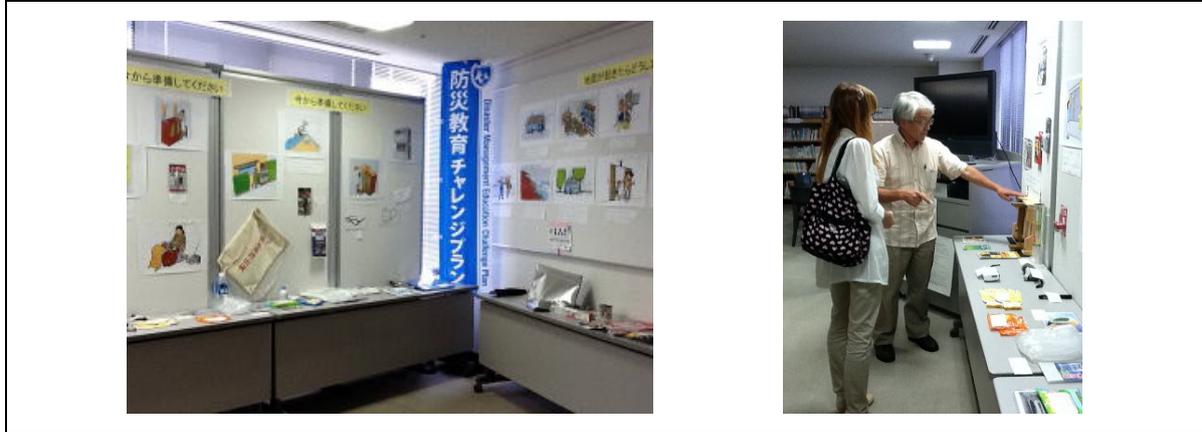


8月21日 京都府舞鶴市災害時  
外国籍府民サポーター研修



11月12日 城陽市国際交流協会

◆防災グッズ展示会 (第1回 8月30日～9月9日、第2回 1月14日～20日)



(自由記述: 2/3)



◆メディア

ワークショップや防災グッズ展示会の活動はメディアでも多数取り上げられました。中でも京都新聞では、ワークショップだけでなく、有志の会の活動全般についても丁寧な取材をしてくださり、コラムや社説などを通じて、災害時の外国人が陥る状況や「やさしい日本語」の有効性についての記事を書いていただきました。

社説

今を生きる考える 災害弱者の外国人支えたい



やさしく、分かりやすく... マンガ・岡本 浩

高齢者や障害者ら「災害弱者」の支援を自治体が進めている。地震や津波、台風など日本に多い災害について知識が乏しく、言葉が十分でない在住外国人も「災害弱者」だろう。阪神大震災の際に、地震被害や避難に関する情報が得られず、避難所では言葉の壁で孤立する人が少なくなかったからだ。東日本大震災でも、同様の例が見られた。地域に住む外国人の防災支援の重要さをあらためて指摘したい。

神戸市の地域FM局「FMわいわい」は、東日本大震災の直後からインターネットのラジオ放送で英語、中国語など6言語の情報提供を始めた。大津市に拠点を置くNPO法人「多文化共生

マネージャー全国協議会(略称タプマネ)も3月11日から活動を開始した。新聞やテレビから「被災者は保険証がなくとも医療機関で受診できる」といった生活情報を集め、11言語に翻訳しホームページに掲載。「多言語ホットライン」も開設し約1月半の間に133件の相談に応じた。放射線や原発に関するものが3分の1を超えた。外国人の場合、限られた手段で限られた情報しか入手できず、混乱や不安に陥るとされる。ネットメディアの発達で、詳細な情報に接する手段は豊富になっている。上手に生かすことが大切だ。京都市国際交流協会は、登録した希望者に多言語で、台風情報や避難所の場所を知らせるメールマガジンを送る事業を始めた。普段の積み重ねが、いざという時に役立つ。3月13日から仙台市の多言語支援センターに応援に入ったタプマネの高木和彦さんは「初動段階で情報格差を防ぐのが大切」と指摘する。外国人は、言葉や生活習慣の違いなどで、避難所に入ることさえ遠慮、見放れがあるという。中国人の技能実習生らが被災、言葉の壁でコミュニケーションが十分にとれず、救援物資の配布などの連絡が十分でなかったケースもあったという。福島第一原発事故が影響し、災害発生後約1カ月で観光客や留学生を含め約53万人の外国人が出国した。日本に残り続けたのは日本人の配偶者や家族が多く、避難所などで、大きな情報格差は生じなかったようだ。アジアからの「農村花嫁」も被災した。宮城県国際交流協会によれば、県内の外国人約1万6千人の4人に1人は日本人の妻。被災後、生活保護の申請や死亡した夫の遺産相続などをめぐり親族とトラブルもあったという。約1900人のフィリピン人が外国人登録している宮城、岩手両県に7月、同国の女性医師3人が入り、タガログ語で女性の診察や相談に応じた。孤立化した外国人妻への「心のケア」も重要だ。京都府内の外国人約5万3千人の8割は京都市内に住む。在日が長く言葉では不自由しない人が6割以上だが、留学生や日本人の配偶者など「災害弱者」として配慮が必要人も少なくない。上手に伝える訓練を京都市左京区の市国際交流会館で昨年9月、外国人を多言語で支援する「避難所宿泊訓練」が行われ、約50人が参加した。床に寝袋で寝て、食事は非 常食という臨場感のある訓練だった。多数の避難所に少数の外国人がいる想定で、避難所を巡回して自分たちで日本語から翻訳した情報を伝えたり、要請を聞いた。京都府国際センターも外国人妻が居住する府北部などで、ボランティア団体と協力して「やさしい日本語」で防災情報を伝える訓練を行っている。いずれの訓練でも「避難所」の意味を説明する必要がある人もいて、関係者は、こうした取り組みの意義を再確認したという。ただ、対象となる外国人の人数に比べ、訓練の回数や参加者の数が多いとは言えない。繰り返し実施して万に備える必要がある。京都市は、今年から3年計画で、市内在住の外国人コミュニティに関する調査をスタートさせた。宗教や国籍ごとに、連絡を取り合う人たちの生活実態を把握しておけば、災害時の被害把握や情報提供にも役立つ。地域社会の中で普段から「縁の見え関係」を築き、言葉の壁ととも心の壁を乗り越える努力を続けることが、災害時に生きていくはずだ。

[京都新聞 2011年09月24日掲載]

凡語

文化と優しい日本語

中世ヨーロッパでは外国語の習得は「貴族の趣味」とされた。時間と財力に加え、言葉の背景にある文化への広い知識が求められたためだ▼仕事や結婚を機に日本に住むが日本語に慣れぬ外国人は多い。言葉の壁が災害など緊急時にはなお高くなる。必要な情報を「やさしい日本語」で提供しようという市民グループが京都を拠点に広域に活動している。12日には城 陽市で活動紹介の催しが開かれる▼やさしい日本語は「起きるおそれがある」といったあいまいな表現は避け、状況や情報を簡潔に正確に伝えるためのルールを設けている。阪神大震災を契機に発想され、東日本大震災後は防災教育の中に位置づけようという関心が高まっている▼言語学者鈴木幸夫氏は著書「ことばと文化」(岩波新書)の中で、言葉の正しい理解には「文化の壁」を意識し、乗り越えることが必要と指摘している。その視点からすればやさしい日本語は、お年寄りなど最新の知識や情報に乏しい人にも緊急時の有効なコミュニケーション方法だと言えよう▼新しい可能性がさらに広がろう。主唱者の佐藤和之弘前大教授の文章▼やさしい日本語が来年度から中学校国語の教科書の一部で初めて取り上げられることになった▼併せて京都のグループが作成した防災ガイドブックが別 誌本に指定された。きょうは文化の日。地道な取り組みを続ける市民の存在もまた京都の頼もしい「文化力」と見たい。

[京都新聞 2011年11月03日掲載]

楽行 陽明 2011年(平成23年)12月19日 月曜日

やさしい日本語 災害時の情報伝達 外国人に普及へ

山城地域でも研修会

Table with 2 columns: 防災関係の「やさしい日本語」の例 and 火の始末をする. Includes terms like 避難所, 避難所, 応急処置, 余震, 火の始末をする, 避難所, 避難所, テマ, 外国人相談窓口.



「やさしい日本語」の使い方を市民にアドバイスする杉本さん (11月12日、城陽市国際交流協会)

タイムリー やましろ